

「令和4年度 第2回加東市手話施策推進会議」の経過

1. 開会

発言者	会議の経過 / 発言内容
司会	欠席の委員のご報告をいたします。本日、上田委員、内山委員のお二人から欠席の報告がございました。出席委員数は過半数に達しており、会議は成立しています。

2. 委員長あいさつ

3. 議事

(1) 令和4年度加東市手話施策推進方針に基づく施策について

事務局	資料に沿って説明 ※学校での手話学習について補足説明 学校での手話指導時に、聞こえない兄弟のいる子ども（ソーダ）が手話表現をする中で堂々とした様子へと変化が見られた事例がありました。
委員	※校長会からの委員より補足説明 加東市では手話言語条例を制定していることから、福祉の学習の中でも手話は必ず経験して卒業させてやりたいと考え、校長会で各校に取り組みを依頼してきました。コロナが収まりつつあり、外部講師に依頼ができる良いタイミングでした。この会議の中で、他の委員の想いや願いを聞き、手話学習は大事だと分かりました。各学校で回数・方法などいろいろ工夫がされ取り組まれました。私のいる小学校では、学習発表会で子どもたちが自分たちで手話も取り入れた劇を考えました。コミュニケーションの一つとして手話に取り組んでいます。
委員長	報告に対し、ご意見はありますか。
委員	報告ではソーダの自尊感情が高まるような取り組みになっており良いことだと思います。ソーダが集まるということにも大きな意味があり、その子のエネルギー活力にもなるので、できれば次の段階に繋がられないでしょうか。 もう一つは、加東市は小学校の講座を先進的にされており、基本的には福祉学習の枠組みでうまく機能していると思うが、各市の状況があるので性急にはと思いませんが、次の段階として言語学習という枠組みでされてはどうでしょうか。今後、福祉活動・学習の枠は取り組むことが増えると予想され、福祉ではなく言語の枠で手話に取り組めれば継続しやすくなると思います。
事務局	これまで学校現場になかなか手話が入りませんでした。が、「Lets 手話! for キッズ」によって授業のひとつとして取り入れられたのではないかと思います。皆さんにもアイデアをもらいながら、できることから少しずつ取り組めればと考えています。

(2) 令和5年度加東市手話施策推進方針（案）について

事務局	資料に沿って説明
委員長	今後資料を作るときには「手話」を「手話言語」としていただけないでしょうか。
事務局	分かりました。

委員長	先ほどの意見について質問があります。コーダ（聞こえない親をもつ聞こえる子ども）・ソーダについて、それぞれの立場・考えも様々です。周囲から「ソーダだから手話ができるよね」「手話を教えて」と言われ、ストレスに感じる子もいるのではないのでしょうか。
委員	コーダと知られたくない子もいますが、今の小学生～高校生はポジティブな子が多く「手話は武器です」と明言しています。多くのコーダ・ソーダは、我々が思っているよりもポジティブに捉えている可能性があり、繋ぐだけで積極的な活動をしだすという期待もできます。
委員長	あるろう夫婦から「聞こえる娘が友達から『手話できるよね。教えて』と言われ嫌だ、と言っていた」という話を聞きました。一概に「コーダ・ソーダだから」ということではなく、子ども個々の考えを尊重しなければいけないと思います。他にご意見ご質問はありませんか。
委員	「一緒に手話を覚えよう」で、通訳者が指導するだけでなく、ろう者が指導することはできないのでしょうか。
事務局	前日も申し上げましたが「一緒に手話を覚えよう」は、出演者も指導者も職員という中で、シナリオも事前打ち合わせをして作成し、収録時間も調整し30分程度の短時間で収録することで、出演する職員にも負担なくやってもらっています。それが聴覚障害者協会のできるのであれば、検討してもいいかとは思いますが、今の状況では難しいですか。
委員	「一緒に手話を覚えよう」については、シナリオ作りから指導までとなると加東聴覚障害者協会ではできないので、ろう者がケーブルテレビに出演しよう運動について話せないのでしょうか。
委員長	情報BOXではなく他の機会でも、ろう者自身が話をするという機会が欲しいということですか。
事務局	「手話を学んだ人のための特別講義」で聴覚障害の方から話を聞く機会は設けていますが、それとは別にケーブルテレビに出演し話したいということでしょうか。
委員	ろう者が困っている事を知らない方はたくさんいます。出演して話すことで、出会ったときに挨拶や協力をもたらえるのではと思います。
事務局	「手話を学んだ人のための特別講義」はまさにそういうことを市民の方、特に手話を学んでいる方に知ってもらいたい、理解を深めたいという思いで開催をしています。加東市のろう者がケーブルテレビに出演し困っていることについて話すことによって、声をかけてもらいやすくなるという意味ですか。
委員長	交流の回数を増やせばいいのでしょうか。
委員	そうです。もっと加東市の登録通訳者も増えてほしいです。そのために理解を広げるということです。
事務局	ケーブルテレビだけではなく、ろう者が発信できる場が欲しいと捉えればよろしいか。

委員	そうですね。理解を広げてほしいです。
委員長	出演に限らず、さまざまな方法でろう者が話をする機会を増やせばいいということでしょうか。それについては市で検討するという事によろしいですか。
委員	はい。

(3) その他

委員	日本聴力障害新聞を各課で購読してほしいです。
事務局	全庁での購読はできませんが、今年度から社会福祉課で一部購読し、健康福祉部内で回覧します。
委員	社会福祉課に設置通訳者が居ない時があります。事前連絡して行った方がよろしいか。
事務局	2名いる手話通訳者ができる限り不在にならないよう勤務を調整しています。また、社会福祉課には手話検定合格者（5～2級）も複数いるため、手話で会話をしていただければ職員も手話が更に上達すると思います。皆、一生懸命対応する意識はありますが、専門的な手続きや複雑な相談対応には限界はあり、そのような場合についてはできれば事前連絡のうえ来所いただければと思います。
委員	わかりました。
委員	ワイドニュースに字幕はつきませんか。字幕がない場合には手話通訳が欲しいです。
事務局	ケーブルテレビの担当課長に「できるところから取り組んでほしい」と要望はしています。せめてインタビューなどで質問に字幕がついている場合は、返答の部分にも字幕をつけることから始めてほしい、という話も伝えましたが、「すぐには対応できない」という回答でした。 また、3月市議会でも議員からケーブルテレビの字幕について質問があり、「すぐにはできないが前向きに検討していきたい」という答弁がされていました。「絶対できない」という回答ではなかったということはお伝えします。
委員	期待しています。
委員長	他にご意見ご質問はありませんか。 ないようですので、令和5年度加東市手話施策方針の（案）を外してください。

4. 事務連絡等

司会	令和4年度第2回加東市手話施策推進会議はこれで終了でございます。 令和5年度第1回の会議は9月頃に開催を予定しています。
----	---

5. 閉会